

小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年10月6日（月）午後6時30分～午後7時35分

2 開催場所

石尾台小学校 体育館

3 参加者数 22名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
	学校教育課	課長	前原 敦
〃	〃	主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	田中 秀治
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

石尾台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（石尾台小学校）

午後 6 時 30 分 開会

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 石尾台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆を対象に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料 1 ページ）

- ・昭和 55 年度から令和 13 年度までの、石尾台小学校の児童数の推移は、昭和 57 年度の 1,324 人をピークに、令和 13 年度では 93.1%減少の 92 人と推計される。

- ・石尾台小学校は、今年度、児童数 159 人、6 学級で、学校規模は、全学年でクラス替えができない「過小規模」である。今後は、児童数がさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。
- ・石尾台中学校は、今年度、生徒数 337 人、10 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後は、生徒数、学級数ともに減少し、令和 18 年度からは、クラス替えができない学年がある「小規模」になると推定されるが、令和 22 年度では「やや小規模」であると推定される。
- ・玉川小学校は、今年度、児童数 195 人、8 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 9 年度から「過小規模」になると推定される。
- ・押沢台小学校は、今年度、児童数 187 人、8 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 13 年度から「過小規模」になると推定される。

<アンケート結果について>（資料 2～5 ページ）

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、石尾台小学校では、「賛成」の方の割合が保護者で 59.1%、地域の方で 66.0%となっている。

「反対」の方は、保護者で 14.6%、地域の方で 20.0%である。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「地域と学校の関係が希薄になるから」と多くの方が心配している。

石尾台小学校に、玉川小学校と押沢台小学校を加えた、石尾台中学校区の小学校「全体」の結果も、石尾台小と概ね同様の結果となっている。

- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、石尾台小学校、全体ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。賛成の理由として、保護者の方は「子どもの人間関係に良い影響を与えるから」や「集団活動における適応能力が磨かれるから」と考える方が多く、地域の方は「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れるようになるから」と多くの方が考えている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。

小学生の保護者では、「複数学級を望ましいと考えている人」は 90.9%、小学生では、「複数学級が望ましいと考えている児童」は 60.4%となっている。その中で、

石尾台小学校を個別に見ると、複数学級を望ましいと考えている保護者の方は 89.8%、児童では 38.5%となっている。石尾台中学校区全体と比較して、児童では、複数学級を望む割合が 21.9%低く、その分 1 学級を望む割合が多くなっている。今回のアンケート対象の 17 校の中でも、過小規模校や小規模校では、1 学級を望む児童が多い傾向があった。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「運動会などの行事でクラスに活気があること」や「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」、また「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」が大事だと考えている。中学生では「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」を 51.7%の生徒が選んでいるが、同様の項目を選んだ小学生は、石尾台中学校区の小学生全体では 28.9%、石尾台小学校では 19.0%であった。「クラスが変わって」をイメージしにくいからか、中学生と比較し、低い比率となっている。

地域の方は、「子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。

- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」や「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」が重要と考えている。

地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」をととても多くの方が重要と考えている。

- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

<本市の考え方について>（資料 6 ページ）

- ・「児童生徒数推計」から、石尾台中学校は、「小規模」又は「やや小規模」で推移すると推定される。また、令和 13 年度では、中学校区内の全ての小学校が、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定され、令和 22 年度では、児童数はさらに減少すると推計される。
- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、行事でクラスに活気があることやクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関することを多くの方が心配している。
- ・「地域の特性」として、ニュータウン地区内で、石尾台中学校区は高森台中学校区と接しており、石尾台中学校は、直線距離で高森台中学校から約 1.1 km の距離に位置

している。また、中学校区全体の北部から南部にかけて傾斜がある地形で、登下校の手段に配慮する必要がある。

- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、石尾台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 石尾台中学校については、「小規模」又は「やや小規模」で推移すると推定されることから、その推移を見守ることとする。
- 2 小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くと推計されることから、隣接する中学校区と合わせた検討も視野に入れる必要がある。
- 3 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する。

3 意見交換

【質問 1】

石尾台中学校区の児童は、複数学級が良いと考えている児童が 60.4%ということだが、各学校個別で見た割合を知りたい。

【事務局】

玉川小学校は 75.2%、石尾台小学校は 38.5%、押沢台小学校は 61.6%です。

【質問 2】

石尾台中学校区内だけでなく、隣接する他の地区とともに学校規模適正化の検討を進めるのか。

【事務局】

石尾台中学校区の小学校 3 校を仮に統合したとしても、将来的には全学年でクラス替えができる規模となるのは困難だと推計しています。そのため、隣接する中学校区等も合わせた検討も必要であると考えています。

【質問 3】

参考として藤山台小学校が 3 校統合された際のスケジュールを教えてください。

【事務局】

手順としては、平成 25 年に藤山台小学校と藤山台東小学校を統合し、平成 28 年に西藤山台小学校が統合して、現在の藤山台小学校が開校しています。

平成 22 年 4 月に藤山台中学校区学校規模適正化地域協議会が設置され、平成 24 年 2 月には「藤山台中学校区のよりよい教育環境の実現に向けた第 1 次小学校統合計画」が策定されました。協議会の設立から 3 年程度で最初の統合が行われています。

【質問 4】

藤山台小学校は再び統合の対象となっているが、保護者から何か反対の意見は出ているのか。

【事務局】

藤山台小学校の保護者アンケート結果では、藤山台小学校が適正規模の対象となることについて、他の地区と比べて賛成の意見が多くなっています。

藤山台中学校区は小学校、中学校がそれぞれ一つしかないので、近隣の中学校区と合わせた検討が必要であると考えています。

【質問 5】

藤山台小学校は過去に統合しているのにも関わらず、今回検討の対象となっているということは、当時の児童数推計の見通しが甘かったということか。

【事務局】

当時は今回と同じように、子どもが減少している中で、児童数を確保しようと検討を進めました。児童数の減少が想定よりも早くなっているのは事実です。

【質問 6】

アンケート結果では、登下校に関することを多くの方が心配しているということだが、自転車通学やバス通学など、通学手段に関して具体的な案などはあるのか。

【事務局】

具体的には決まってはいませんが、石尾台中学校区は坂が多い地区ということもあり、通学距離だけではなく、地形的な点も考慮して通学手段を検討する必要があると考えています。

【質問 7】

どこに、石尾台中学校区の子どもたちが通う学校ができるのか。

【事務局】

今回の意見交換会は、アンケート結果を受けて、石尾台小学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めることに対してご理解を得たいということで開催させていただきました。

現時点では、仮に統合する場合に、どこに設置するかということは決めていません。そのようなことも含めて、今後も皆様と協議をしていきたいと考えています。

【質問 8】

複数学級の良さはわかったが、単学級の課題は何があるか。

【事務局】

単学級であると、クラス替えができず人間関係が固定化しやすいことや、教員の配置数が増えないなどの課題があります。また、1 学級 35 人の基準があるため、単学級だから必ず少人数学級になるというわけではありません。単学級と複数学級のどちらにもメリットとデメリットはありますが、やはり複数学級の方がメリットが多いと考えます。

【質問 9】

バスなどの他の通学手段について検討するということだが、通学距離について何か基準はあるのか。

【事務局】

文部科学省が公表している基準では、小学校は 4 km、中学校は 6 km となっていますが、春日井市では、小学校は 1.5 km、中学校は 2 km を標準としています。しかし今後、バスなど別の通学手段を検討して導入することになった際は、文部科学省の基準を基に検討することとしています。

【質問 10】

子どもの体力面を考えて、低学年と高学年の校舎を分けて通学させるようにすれば良いのではないか。

【事務局】

低学年と高学年を分けて、それぞれ別々の学校に通うことは、市が考える学校の適正な規模や、より良い教育環境の向上という目的から外れてしまうおそれがあるので、想定していません。子どもたち同士の関りを多く確保したいと考えているため、低学年と高学年を分校のように分けてしまうと、より小さな規模となってしまいます。

【質問 11】

仮に統合となった場合は、新しい校舎を建ててほしい。

【事務局】

仮に統合が決まったとして、既存の学校を使用する場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合が想定されます。どの手法で検討を進めるかは皆様と話し合いをして決めたいと考えています。なるべく早いタイミングで本市も進めていきたいと考えているので、早く合意形成ができれば良いと考えています。

【質問 12】

小学校は1学年の人数が35人を超えたら、2クラスにできるということか。

【事務局】

ご質問のとおり、35人を超える人数がいないと複数学級にはなりませんので、その規模を確保したいと考えています。

【質問 13】

早くて統廃合はいつごろか。

【事務局】

スケジュールに関してはまだ決まっていません。この地区の方向性について住民の皆様と市との合意形成ができるタイミングによって、今後のスケジュールが変わってきます。仮に統合と決まった場合、既存の学校を使用する場合や新しい学校を建てるのかで、工事の期間が変わってきます。

【質問 14】

他の地区の進捗状況など、小中学校の適正な規模等に関する情報は随時、連絡はあるのか。

【事務局】

現在、5中学校区内の各17校を並行して意見交換会を実施していますが、今後は中学校区単位での意見交換会の実施を考えています。地域の皆様と早く合意形成ができた地区から取り掛かりたいと考えています。他の地区の状況に関しても、皆様に情報提供をしていく予定です。

【質問 15】

今後は協議会を立ち上げて議論を進めていくとのことだが、各地域によって考え方が違うので合意形成が難しいと思う。意見がまとまらない時はどのように進めるのか。

【事務局】

全国的な例を参考にすると、合意形成がうまくいかない場合は一旦休止し、何年後に再開するといった方法もあります。ただ、スピード感をもって事業に取り組むことが重要であると思うので、定期的に皆様と顔を合わせながら、お互いの良いところを理解し、議論が継続できる環境を残すことが重要と考えます。

【質問 16】

最終的な方針の決め方はどのような方法ですか。

【事務局】

皆様の意見を踏まえながら、最終的には市が決定するという形になります。

【質問 17】

本日の意見交換会について、保護者の参加率が低い。具体的な方針や案を示さないと保護者は自分事と思ってくれない。保護者の出欠を取るなど積極的に保護者に関心を持っていただくように働きかけてほしい。

【事務局】

今後は中学校区での意見交換会を開催しようと考えています。次回の意見交換会の開催の際の参考にさせていただきます。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・石尾台中学校区の各小中学校で開催した意見交換会でいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は石尾台中学校区全体の単位で、年内に2回目の意見交換会を開催したいと考えている。
- ・その後、石尾台中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていきたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へはHome&Schoolで、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後 7 時 35 分 閉会